

ある自治公民館の運営危機を乗り越えるためのウェルビーイング的思想の展開

—（「身体的健康」「精神的な健康」「社会的充足感」）—

【今おきていること】

本年度、決算が40万円ほど赤字になることが明確になった。（前年度から解っていたことではあるが・・・）⇒ 特別会計予算からの流用。（臨時総会承認要）
次年度以降も、館員の減少、高齢化による館費の免除世帯増により収入が大幅減
物価高騰による維持管理費増、また館費の値上げや、行事（六月灯・敬老会・十五夜等）の縮小による経費の削減による運営維持の検討。（総会での承認要）

【改善案】

- ①館費の値上げ・・・8,400円／年（700円／月）
⇒12,000円／年（1,000円／月） 【3,600円×200戸＝720,000円】
- ②『準会員制度の導入』・・・実行組合には加入せず、六月灯や十五夜、こども育成会、リサイクルなど公民館で行われる活動のみに参加できる会員制度の新設。
- ③高齢者（85歳以上）会員の館費免除規定の見直し。



『これ実施したら取り敢えず運営は維持できる！！果たしてこれで良いのか？？？』



【当該公民館の現状】

育成会組織として、「こども育成会」「壮青年会」「婦人会」「高齢者会」「こけな
い体操」「ボランティア会」が存在するが、活発に動いているのは高齢者会・こけ
ない体操・ボランティア会の同じ構成員である高齢者の育成組織のみである。

考えなければならない喫緊の課題は**子供育成会が構成戸数45戸程度に対して公民
館加入世帯は10戸程度と20%強の加入率しかない。** ⇐ **なぜ？？？**



「魅力が無い」「得する事を見いだせない」「役員が煩わしい」



『安心して暮らせるまちづくり』『参加しやすい体制づくり』『快適に暮らせるまちづくり』
の3つの因子の導入

魅力が無いから、得する事がないから、役員が煩わしいのであれば、「魅
力ある公民館」・「良かったと思わせる公民館」・「役員を担って楽しいと
思える公民館」を構築していけば良い。

ハード面・・・お金の問題 ⇒ クリアできる

ソフト面・・・魅力ある公民館（加入したいと思える公民館） ⇒ 難しい

そこで、